

# 特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

代理人 特許業務法人 楓国際特許事務所 様		PCT 国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2) [PCT規則43の2.1]	
あて名 〒540-0011 日本国大阪府大阪市中央区農人橋1丁目4番34号		発送日 (日.月.年) 21.05.2019	
出願人又は代理人 の書類記号 13190-MU-PCT		今後の手続については、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2019/012093	国際出願日 (日.月.年) 22.03.2019	優先日 (日.月.年) 25.07.2018	
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. G06K19/077(2006.01)i, H01Q1/38(2006.01)i, H01Q1/52(2006.01)i			
出願人 (氏名又は名称) 株式会社村田製作所			

<p>1. この見解書は次の内容を含む。</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 見解の基礎</li><li><input type="checkbox"/> 第II欄 優先権</li><li><input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成</li><li><input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</li><li><input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献</li><li><input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の欠陥</li><li><input type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願についての意見</li></ul> <p>2. 今後の手続</p> <p>国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。</p> <p>この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から2月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。</p> <p>さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。</p>
---

見解書を作成した日 07.05.2019			
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 境 周一 電話番号 03-3581-1101 内線 3586	5N	3654

## 第 I 欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。
  - 出願時の言語による国際出願
  - 出願時の言語から国際調査のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
2.  この見解書は、PCT規則 91 の規定により国際調査機関が許可した又は国際調査機関に通知された明らかな誤りの訂正を考慮して作成した (PCT規則 43 の 2.1(b))。
3. この国際出願で開示されたヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下の配列表に基づき見解書を作成した。
  - a.  出願時における国際出願の一部を構成する配列表
    - 附属書C/ST.25テキストファイル形式
    - 紙形式又はイメージファイル形式
  - b.  国際出願とともに、PCT規則13の3.1(a)に基づき国際調査のためにのみ提出された、附属書C/ST.25テキストファイル形式の配列表
  - c.  国際出願日後に、国際調査のためにのみ提出された配列表
    - 附属書C/ST.25テキストファイル形式 (PCT規則13の3.1(a))
    - 紙形式又はイメージファイル形式 (PCT規則13の3.1(b)及びPCT実施細則第713号)
4.  さらに、複数の版の配列表又は配列表の写しが提出され、変更後の配列表又は追加の写しに記載された情報が、出願時における配列表と同一である旨、又は出願時における国際出願の開示の範囲を超えない旨の陳述書の提出があった。
5. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求項	1-4	有
	請求項		無
進歩性 (IS)	請求項		有
	請求項	1-4	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求項	1-4	有
	請求項		無

2. 文献及び説明

文献1 : JP 2007-089054 A (日本電信電話株式会社) 2007.04.05, [0002] - [0019] 及び図1 (ファミリーなし)  
 文献2 : US 2018/0189623 A1 (AVERY DENNISON RETAIL INFORMATION SERVICES, LLC) 2018.07.05, Pars. [0034]-[0067], Figs.1-11 & WO 2018/125977 A1  
 文献3 : JP 04-215226 A (松下電器産業株式会社) 1992.08.06, 第2頁右上欄第5行-左下欄第11行及び図1-3 (ファミリーなし)

請求項1-4に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-3より進歩性を有しない。文献1にはIC部とアンテナ(請求項1-4におけるアンテナパターンに相当。以下同様。)を有するRFIDタグ(無線通信デバイス)であって、アンテナの根元から1/3の位置(切断位置)にヒューズ(高損失部材)が設けられており、電子レンジから発生される強力な電波を受信した際にヒューズが切断されることでアンテナの受信効率を下げ(電磁波加熱用マイクロ波の周波数での前記アンテナパターンの共振が維持されない)、アンテナを介したIC部への給電が停止されるものが記載されている。

文献1にはRFIDタグの具体的構造については明示がないものの、例えば文献2に記載されているように、RFIDタグにおいて基材の表面にアンテナパターンを形成することは周知の技術である。

また、文献1にはヒューズの具体的構造については記載されていないが、例えば文献3に記載されているように、フェライトビーズとその内部に設けられた金属部材によってヒューズを形成することは周知の技術である。

してみると、文献1にこれら技術を適用することにより、請求項1-4に係る発明の構成とすることは、当業者が容易になし得たものである。